# キッズサポート部 会員からのメッセージ

キッズサポート部のメンバーが入会したきっかけや、読み聞かせ活動への熱い思いを語ります。
きっかけも思いも様々ですが、子どもたちにおはなしの楽しさを伝えたい気持ちは全員共通です。
ご興味ある方、見学もできますので、お気軽にお問い合わせください。
キッズサポート部一同お待ちしております！！

## 「読み聞かせ　やってます」

中央図書館で読み聞かせボランティアをやり始めて４年です。もともと子どもは好きだったのと、聞いている子どもの表情を見ていると癒されるからです。

１年目は勉強会がありました。特に興味深かったのは、選書の仕方です。登場人物のつながりや1冊目から２冊目へと内容が広がっていくのです。一人で読むのは短いお話でも、頭の中で想像を膨らませて、長い本を読んだ気分になって、満足感を味わえると教えていただきました。

月1回の読み聞かせで打ち合わせは取れなくとも、終わると登場人物や内容が不思議と一致していることが多くメンバーの心を感じています。最近、聞きに来る人数が増え嬉しいです。絵本や紙芝居を、前に来て触る様子がたまらなく可愛いです。

佐藤禮子

読み聞かせボランティア会員となり早３年が経ちました。先輩方が選ぶ絵本や読み方、勉強会などで、学びを得ながら、自分でも絵本選びや読み方の工夫を重ねる日々は、楽しくあっという間でした。

主な活動場所の図書館“おはなし室”は、皆、忙しい日常からふと解放され、親御さんもお子さんもリラックスして聞いてくださっています。とても穏やかな時間です。大人も子どもも引き付ける絵本の魅力は計り知れないですね。

きっかけは、地域と自分の好きな場所やモノで関わりがもてたらと巡らせていた時期に、「図書館」「絵本」「ボランティア活動」とつながり、説明会に参加したところ、みなさんがイキイキしておられ、即決いたしました。というのも、幼少の頃、移動図書館が来る日が楽しみでした。家でページをめくり絵本の世界に入り込み、空想にふける日々でした。大きくなるにつれ絵本から離れ、時々本屋さんで気になる絵本があると買う程度に。それが、出産を機に、また絵本に触れる機会を得て、子どもと共に楽しい時間を過ごす中で原点回帰、絵本のある生活を続けたいという気持ちに気づきました。

読み聞かせは、奥が深く、同じ絵本でも読み手により間合いや抑揚、ページめくりなど、それぞれです。共通しているのは、楽しんでもらいたい！何か感じとってもらえるモノがあれば幸い！という願い。これからもたくさんの絵本との出会い、それを分かち合える仲間や幸せを願う親子との出会いを楽しみに読み聞かせボランティア活動を続けていきたいです。

ROMI

## 「私と読み聞かせ」

５０年くらい前、大阪寝屋川市の子ども文庫で「読み聞かせ」という活動に出会いました。その後草加に住みマンションの集会室で子ども文庫を開き、新図書館が駅の西口にできてからＬ．Ｖ．Ｓ．に所属し読み聞かせを続けてきました。絵本の世界を子どもと共有できる喜びが長くやってこられた一番の理由です。

又５０年前からずっと読み続けられているという絵本の命の長さも魅力です。「ぐりとぐら」（中川李枝子作/福音館書店）、「おおきなかぶ」（A.トルストイ再話/福音館書店）、「ちいさいおうち」（バージニア・リー・バートン文・絵/岩波書店）あげていけばればきりがありません。これらは子どもの世代に読まれ、孫世代に読まれ、長い時間を絵本がつなぎ、子育ての思い出を共有できます。本の持つ力は凄いです。

長くやってきて子どもの育つ環境の変化を感じます。以前は読み聞かせに集まる子どもは３歳以上でしたが、今は１歳未満もいます。ベビーカーが大集合する時もあります。私は、この乳児の間はお母さんの膝の上でお母さんに読んでもらうのが一番良いと思うので私はちょっと苦手です。それでも、お母さんに読んであげる気持ちで読んでいます。忙しい日常のなかちょっと一休み、赤ちゃんと一緒に絵本の世界を楽しんでほしいと思います

T・SAITO

## 「絵本を読む３つの楽しみ」

キッズサポート部に加わって早いもので８年になります。最近ようやく余裕を持って読めるようになった気がします。私が絵本を読むにあたって３つの楽しみがあります。

その１、声を出す楽しみ。入部当初、朗読勉強会で教わった腹式呼吸を使う発声法がとても心地いいです。体の中から声を出すことは体調にもいいように感じています。

その２、本を探す楽しみ。たくさんの絵本の中から、ストーリーや絵のタッチなど、自分のお気に入りを探すのはワクワクします。

その３、子どもたちと接する楽しみ。子どもたちとの会話や笑い声から、いつもエネルギーをもらっています。３つのうち、やっぱりこれが一番かな。

キッズサポート部の目的は「読み聞かせを通して子どもたちに本の楽しさを伝える」ことですが、私の場合はまだまだ「自分が楽しいから読んでいる」という感じです。でも、知らず知らずのうちに、この楽しみが子どもたちに伝わればこんなにうれしいことはありません。

とんちゃん

# ちいさいおうちに住むがまくんのつぶやき

## バイブル

『サンタクロースの部屋　子どもと本をめっぐって』（松岡享子/著/こぐま社）を読んだ方は多くいらっしゃると思います。ちいさなおうちに住むがまくんが子どもと本に関わり始めた頃、子どもたちにどんな本を選んだらいいのか、どんな読み方をしたらいいのか分からず、児童書研究の本を読みあさった中の一冊です。

松岡享子さんの図書館勤務時代や文庫でのエピソードの他に、子どもと本に関わり始める人にも分かりやすく、知識を得ることができ、大変勉強になります。そしてこの本で何より惹かれたのは前書きです。

アメリカのある児童文学評論誌の掲載文と松岡享子さんによると

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

子どもたちはいずれサンタクロースの正体を知ってしまうがそのことは問題ではなく、大事なのはサンタクロースの存在を信じた幼少期に、子どもの心に「信じる」という能力が育つことだ。いつかサンタクロースはその子の心から出て行ってしまうが、サンタクロースが住んでいた心の空間には、また他の目に見えない不思議な何かが住む。

不思議を信じる空間は、子どもたちの精神に大切な働きかけをする。にもかかわらず、サンタクロースが存在すると言うことは子どもをだますことだと思う大人が、子どもたちの不思議の空間をつくる機会を奪っているのではないか。サンタクロースをもっと大切にすべきである。

・・・　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

上記はがまくん短くまとめたもので、実際のものをお読みいただきたいです。『はしがきにかえて』を読んでみて、物語は楽しさに加え、生きる上で大切なものをもたらせてくれるのだととても納得しました。がまくんはこの文が大好きで時々読み返しています。

物語は不思議の宝庫ですね。微力ながら本を通して、子どもたちの心に不思議が住む部屋をつくるお手伝いができたらいいなと思います。

ご連絡入会･見学のお問い合わせは

こちらから →

QR コードを読み込めない方は

下記へ直接ご連絡ください。

momofmimic-sakura@yahoo.co.jp

イラスト：わんぱぐ